

令和7年第3回 区づくり推進横浜市会議員会議（青葉区） 議事録	
開催日時	令和7年9月10日（水） 午前10時00分～午前11時20分
場 所	青葉区役所4階会議室及びWeb会議
出席者	<p>【座長】 おさかべさやか議員</p> <p>【議員：6名】 伊藤くみこ議員、行田朝仁議員、田中ゆき議員、藤崎浩太郎議員、山下正人議員、横山正人議員</p> <p>【説明局員：24名】（青葉区：24名） 中島区長、真船副区長、青木福祉保健センター長、今井福祉保健センター担当部長、綱河土木事務所長、宇多消防署長、ほか関係職員</p>
次 第	<p>議事</p> <p>1 「令和6年度 個性ある区づくり推進費 決算」について (資料1)</p> <p>2 「令和7年度 個性ある区づくり推進費 執行状況」について (資料2)</p> <p>3 「令和8年度 青葉区予算編成の基本的な考え方（案）」について (資料3)</p>
発言の要旨	<p>資料1、資料2及び資料3を真船副区長が説明</p> <p>田中議員 青葉6大学連携事業について、地域の方が課題を持っていて、大学の支援を受けたいという場合に、プラットフォームがないため、区政推進課に頼り、私も取り次ぐということがありました。今後、6大学連携事業として、ホームページとかに、ボランティアの依頼公募みたいなものが作れないのかと考えますが、いかがですか。</p> <p>岩田区政推進課長 6大学側でそういうことが可能かということをまずご相談し、可能であれば、地域の方のボランティア要請みたいなものが受けられる方法を整理したいと思います。</p> <p>田中議員 受付窓口プラットフォームがある大学もあるのですが、ない大学も多く、今、担い手不足でいろいろな業種で大学生の力をかりたいというところが多いと思いますので、ぜひ検討ください。</p> <p>次に高齢者施策、すすき野東急でのスローショッピングについて今年から始めたと思いますが、現段階でのスローショッピングの参加人数などを教えてください。</p> <p>岸田高齢・障害支援課長 7月まで5回実施しました。月によって違いますが、参加者は1名から4名です。それに加えて、買物はされないのですけれども、購入スペースに来られる方もいらっしゃり、そちらは毎回5～6名の参加です。そういう方が今後、スローショッピングをご利用したり、周知によって、さらに希望される方の利用が高まっていくと思います。</p> <p>田中議員 私もスローショッピングに参加し、一人でゆっくり買物ができない、安いものが買いたくても人が横についていると安価なものが買いにくなどの意見を伺いました。また、すすき野東急まで行く足がないから、</p>

	<p>むしろ現地まで連れていってくれてお買物が終わるまで待っていてほしいというような声もありました。スローショッピングの効果を検証しながら進めていく必要があると思いますが、いかがですか。</p>
岸田高齢・障害支援課長	<p>私も利用者の方から、買ったはいいけれども持ち帰るのが大変だという話をお聞きしました。交通手段についても、課題意識を持っており、なかなか今、効果的につながるところはありませんが、送迎なども挙げている事例もありますので、参考にしながら、進めていきたいと考えます。</p>
田中議員	<p>ぜひお願いします。必要とされる方も増えてくると思いますので、両輪で考えて進めてください。</p> <p>もう一点、街路樹について、青葉台駅前の環状4号線のところにイチョウの巨木が生えていて、その根上がりがすごかつたり、秋になると落ち葉や、イチョウの実が落ち、環状4号線の清掃をしている方々や、地域の方からはイチョウじゃない木に植栽を変えてほしいという声がありました。根上がりはきれいになった一方で、古いイチョウの木が伐採された後にまた新しいイチョウの木が植わっています。地域の声を反映した植栽に変えられないのでしょうか。</p>
石島土木事務所副所長	<p>街路樹につきましては、路線ごとに街路樹の植樹を決め、その中で青葉区全体の計画を作っています。根上がり等、支障のあるものは順次対応、もしくは、危険なものは伐採等しています。全体的な植樹の変更につきましては、今後、計画の更新時期、見直しの中で検討できるのですが、路線が長いところもあり、一部だけ変更というのは難しいところがあります。今後の計画の中でご意見も聴きながら考えていきます。</p>
田中議員	<p>今の回答は少し残念に感じました。決まったレベルがあってそれが踏襲されていくという考え方も大切かと思うのですけれども、地域の皆さん、特に植栽が上がっているところで商店を営んでいる方とか、清掃に関わっている方たちから、そろそろハナミズキとかの低木、手入れのしやすい木に変えてほしいと聞いています。時代のニーズも考えながら、見直し時期に地域の声を聴くなどしてもらいたいと思います。</p> <p>最後に、恩田第5公園や荏田西グラウンドなど地域の方がスポーツで利用できる施設なのですけれども、一般公開されていなくて、予約のフォーム等がなくて、どうやって使ったらいいのか、何での人たちは使っているのかという声が上がっています。そういう場所について、少しオープンにして、どこに問い合わせれば使えますよとか、区役所が取り仕りますなどのお知らせはできませんか。</p>
松本地域振興課長	<p>子供の遊び場とか原っぱとか、そういったところの利用についてのお話だと思います。こちらは運営委員会のほうで予約管理等をしており、委員長の個人情報等もあるので、お問い合わせいただければお答えして</p>

	<p>います。もう少し使いやすい手法について検討したいと思います。</p>
田中議員	<p>運営委員会が関わっていて個人情報があるというのは分かるのですが、それとも、グラウンドに関してはどこどこにお問い合わせくださいとか、お知らせいただけると、もう少し利用したい方が利用できるかも知れないでの、よろしくお願ひします。</p>
行田議員	<p>スローショッピングについて、様々な声があるのかもしれません、これから必要な取組とと思いますので、地域の皆さんを大事にしながら育ててほしいと思います。居場所の話なのですが、スローショッピングもそうなのですが、それがあることによって人が集まる。認知症の方だけではなくて、部屋を一歩出るということが、どこに行くかが結構な問題になってきている。そこに行政の力を頼いて、これから先、民間の皆さんのお力を借りて、スペースを提供していただくところにはインセンティブだとか、ご高齢の皆さんの居場所、小さなお子さんも利用するのですけれども、居場所に関して今後、積極的に地域の皆さんと話し合いをする場をもっと意識してもらいたいと思っています。居場所に関しての行政の認識を伺います。</p>
岸田高齢・障害支援課長	<p>現在、認知症カフェに関しては、行政も情報があり地域ケアプラザでも各場所をご案内しています。ただ、新規のご利用提供ですとか、インセンティブというところについては、まだ十分な議論はできていません。居場所が必要だという課題感は持っております、引き続き検討してまいりたいと思います。</p>
行田議員	<p>ぜひお願ひします。その動きを後押しできるよう、議論も今後していくたいと思っています。その上で、この夏は本当に暑く、行政は青葉区内に約60か所あるクールシェアスポットを紹介していました。例えば子育て家庭が煮詰まると、子育て支援拠点に行ったら涼しくて広いところで遊ばせることができて助かる。だけど、支援拠点からするとそのためにあるのではない、という考えがあるかもしれない。いろいろな課題もあるかと思うのですけれども、クールシェアスポットの在り方もしっかり検証して、来年はもっといいものにしてもらいたい。民間の力をかりて、さらに広げたり、もっと入りやすいようにするなどいかがでしょうか。</p>
藤本こども家庭支援課長	<p>こども家庭支援課でも、猛暑は大変問題視しております。この気候変動の中で7月、8月に出ていける場所というのは大事に考えていかなければいけませんし、また別の違った仕組みが必要だということは認識しております区内外でも、関係機関と、在り方について検討し始めています。</p>
行田議員	<p>クールシェアスポットについてはどうですか。</p>
中島区長	<p>認知症カフェであったり、子供の居場所であったり、子供も乳幼児から学齢期まで年齢層によって求めるものも違ってくると思います。全て</p>

	<p>を行政や公的な施設の提供だけではとてもやっていけないというのが現実です。そういう意味でも、今ご提供いただけるそういうクールシェアスポット、こういったことで場所をご提供いただいている方と、今後、どうすればそういう方がそういった場所をご提供しやすくなるかなど意見交換しながら、例えば区役所のほうで少しこういう後押しをすればこういうことができるようになるとか、そのようなご意見などがあれば、取り入れながら、より区民の皆様がこういう暑い時期にも快適に過ごせる、そういう場を増やしていきたいと思っています。</p>
行田議員	居場所は大事なキーワードであると、常々思っています。引き続きよろしくお願ひします。
藤崎議員	19ページの6の(2)自治会町内会長感謝会に「労をねぎらう」という言葉があるのですが、目上の方に使う言葉ではないと思います。非常に気になりました。一つ一つの文書作成において、気持ちがしっかりと整っていないと、こういう言葉が出てきてしまうと思います。
中島区長	議員のおっしゃるとおりだと思います。やはり行政が上で市民が下みたいに見えてしまう。そういう言い回しは慎まなければいけませんし、日頃そういうふうに考えてはいないのですけれども、役所言葉にするとそういうことが出がちと、私も今のご指摘を受けて改めて感じました。意識をしっかりと変えていかなければいけないと感じました。
藤崎議員	日頃、皆さんが常に上から目線で仕事しているとは全く思っていませんが、やはりこういう文書をつくるときに、市民の方に、区民の方にお渡しするようなものにこういった言葉遣いがないようにしてもらいたい。
中島区長	29ページにC S・E S向上研修と書かれています。5月1日と7日に外部講師で窓口・電話・クレーム対応研修ということで非常に限られたテーマだったからなのかもしれません、これまででも長い間、この顧客満足度向上みたいなことをやってこられて、今回35人という報告があるのですが、青葉区としての顧客満足度の状況を伺います。
藤崎議員	35人という数字は、主に対象が新たに区役所に転入された方、また、会計年度職員として新たに任用された方など、これまで窓口対応の経験がない人を中心に募集をかけ参加した人数です。もっと多くの職員に窓口での大切なことをしっかりと伝えていきたいと思っています。また、以前は窓口の満足度調査をやっておりましたけれども、今それがないので、満足度を測る客観的な数字はありません。ただ、窓口で丁寧に対応してもらってありがたかったというような声をその場ではなく別の場とか、たまたま街に行ったときに、とてもよかったですよという話を伺いますので、職員は頑張ってくれていると感じています。
	満足度は把握しづらくなっていると思いますけれども、先ほどの言葉

	<p>と今の話と職員の皆さんとの対応というのは非常に重要なと思います。</p> <p>10ページの6で児童虐待防止対策で保育施設職員向け研修会というのがあって、これは少しこじつけみたいな話になるのですけれども、今回、こども青少年局一時保護所で児童に対する性虐待、写真撮影したという話がありました。今回のここで対象になる皆さんと全然違うとは思うのですけれども、職員の皆さんのが意図せずに性犯罪を犯してしまわないような、研修がますます重要な意味で、この研修の中では性虐待、特に性暴力に近いような話とかをしているか、教えてください。</p>
藤本こども家庭支援課長	<p>こちらの取組は、性被害というか性虐待のことについてクローズアップした研修ではなく、こういう場合に通報を遠慮なく区役所にしてほしいというような研修内容になっております。性被害、性虐待についてはまだ伏せられてしまうような現状がございますので、この点については今後、職員研修も含めて取り組んでいけたらと思っております。</p>
藤崎議員	<p>子育てでは、今回3か所孤立という言葉が出て、子育てが2か所、7ページの子育て情報発信事業と、2か所ぐらい孤立という話が出てきます。区長から今度アウトカム指標を用いた評価が行われるという発言がありましたけれども、孤立を防ぐというのは測定が難しい話ですね。非常に大事だということで、防げているのかどうかというのが難しい。一方で、いろんな地域のつながりづくりをしながらイベントにお越しいただいたりして、一人きりで家で子育てしないようにとか、工夫されていると思います。区民意識調査ではないのですけれども、子育て支援拠点の皆さんのが経年で孤立感が高まっているとか下がっているとか、そういうことも把握できたりすると、孤立する子育てに対するアプローチとか、アプローチが効いているのかどうかということがつかめると期待するのですが、いかがですか。</p>
藤本こども家庭支援課長	<p>乳幼児健診で保護者の方にご家庭での育児の様子を問う質問項目で、孤立していないかを問う、「相談先があるか」「協力者がいるか」を聞いています。孤立の予防を図るための指標を、一応持っております。</p>
藤崎議員	<p>乳幼児健診に来ないと虐待の疑いがあるということで対応されていると思いますが、今、日曜日に拠点とかやっていないので、日曜日に出かけたくても出かけられないとか、そうすると、孤立しているがゆえに出かけられずにあらゆるところとつながらない人は発見できないという可能性があり、それが大きな課題だと思います。顕在化した接点のある人の意見だけだと分かりづらいので、顕在化されていない潜在的なニーズをどれだけ取れるかなという意味で区民意識調査みたいな言葉を</p>

	<p>出了のですけれども、今後、力を入れて予算をかけて皆さんやっていく中で、ちゃんと実感のある政策となるような評価してくれたらなと思います。</p> <p>最後、資料3、来年度の予算編成の基本的な考え方で、スクラップ・アンド・ビルトの検討を進めると書かれています。区づくりの予算もずっと同じようなものをやっているとか、各区で様々な批判とかご意見とかほかの議員からも聞いたりしますけれども、スクラップ・アンド・ビルトについて、行った結果について、来年度の区づくりの予算資料のなかで見せてもらうことはできますか。</p>
中島区長	<p>昨年度、今年度の予算をつくる際にもここについてはこういう形で統合しましたということを説明していますが、より分かりやすく説明できるように工夫したいと思います。</p>
山下議員	<p>6年度決算の中で設備管理費が600万ぐらいの赤字になっているということで、先ほどの、時計の修理の話ですけれども、時計は光熱水費ではないのですか。この辺の数字が上がっているのは。それを見ると、7年度の予算はそれを考慮してか、3000万ぐらい増やしているのですよね。だから、こここのところの何に、時計でこれだけかかっているのか、光熱水費の影響というのがどうなっているのか教えてください。</p>
宮崎総務課長	<p>時計は自主企画事業で実施しました。光熱水費については、自主企画事業ではございません。施設管理費という項目で計上しています。施設管理費の主な赤の理由は、猛暑等もあり光熱水費も原因です。</p>
山下議員	<p>区長にお聞きしたいのですが、区別、区分の総括の中で、施設管理費の赤の部分も結局、トータルでは2～3万ぐらいの不用額という形で収まっているのですけれども、自主企画事業だとかを削って施設管理費を補うというのは、個性ある区づくりというよりは個性のない区づくり推進費だと思うので、本末転倒ではないかと思うのですけれども、この辺の施設管理費というのは、今言われた電気代だとが上がっているというのは私たちも理解しているのですけれども、これを区で全部引き受けで自主企画事業の費用を削らなければやっていけないというのは、そもそもこの予算のつくり方というのが問題あるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
中島区長	<p>自主企画事業のほうは、先ほどの時計だけでなく、一般の事業も含めて少し不用額が出たりすると、その分、少し不用が出てるので何か新しく今年度中にやりたいものはありますかということを各課のほうに問い合わせるなどして、まずは自主企画としての本来のところでなるべく実行するようにはしているところでございます。一方で、施設管理費のほうは、これは光熱水費が一番なのですけれども、それ以外にも物価高騰、人件費の高騰で消防設備とかエレベーターとか、そういう保守点</p>

	<p>検のところが軒並み上がっています。したがって、こういったところについては、回数を減らすとかいろいろな工夫はできたとしても、安全の確保を考えると限度がありますので、ここについてはこれまでもそうでしたが、市民局にも何らかの捻出を相談したいと思っています。</p>
山下議員	<p>要は市民局というよりも財政局が渋いのですね。これ、今聞いていると、先ほど行田先生のほうからクールスポットの話があったのですけれども、公共施設、地区センターとか指定管理でやっているところなどのいわゆるエアコンの更新というのが横浜市全体で260件ぐらい不具合の報告が来ていると聞いているのですけれども、青葉区はどのぐらいあるのですか。要望は来ているのだけれどもお金がないからできないといつて先送りされているのですよ。どこかの高齢者施設ではエアコンが壊れて休館という話も聞いています。青葉区内の現状を教えてください。</p>
松本地域振興課長	<p>区内の公共施設では、今のところ地区センターで体育室にエアコンがついていないところが1か所あり、今後、市民局が導入に向けて動くと聞いてはいます。時期については明確には出されていません。</p>
山下議員	<p>不具合で早めに更新しなければいけないという話はありませんか。</p>
松本地域振興課長	<p>今のところは特にありません。</p>
山下議員	<p>分かりました。それで、指定管理のガイドラインの見直しを8年度にやっていく中で、施設の更新等を当局のほうで責任持ってやっていくという形になると聞いています。市民利用施設では、やはりこの猛暑で特にエアコンなどはきちんと更新作業をしていかないと、止まりましたとかそういうことがあってはいけないと思うので、それはしっかりとキャッチしていただきたいと思います。</p>
	<p>最後に、青葉区の予算編成の基本的な考え方に関してです。先ほどの議員団会議の中で出ていましたが、区民意識調査の中で家賃が高いとか、住宅の価格が高いとか、この辺のところが多いという話があったのですが、これは毎回お話ししていますように、青葉区は住み続けられる街なのでしょうか。私たちはこの街でどういうまちづくりをするのかという方向性が少し見えなくなってきたと感じています。お金を持っている層しか住んではいけない街なのか、それとも子育て世代でお金のかかる世代の人たちも多く住んでもらいたい街なのか。要は住宅価格です。たまプラーザの住宅価格は聞くところによると3億です。普通の一般庶民は買えません。そういうところの問題というのは、やはりこの限られた土地、限られた容積率、そうすると、当然、地価が高くなってきて住宅価格が上がります。すると、どんどん青葉区から宮前区のほうがまだ住みやすいといって移ってしまう。田園都市線沿線で考えてもそういうふうになっていますので、青葉の街をどうやってつくっていくの</p>

	<p>かということを、今後、真剣に考えていかないと。いつまでも愛着を持って暮らせる街、選ばれる街というのは本当にできるのかということ、このことの方向性を具体的に政策に乗せていかないと、もう間に合わないのではないかと思います。前もお話ししたように飲食店もどんどんなってきてマンションになってくるとか、そこの危機感というのを区長自身がどう考えられているのかお聞きしたい。</p>
中島区長	<p>おっしゃるように、今、私たちは、身近なところでいうと鷺沼の再開発、あれがどういうふうに動いてくるのかというのがすごく気になってます。それによって、特に青葉区の北部に住んでいる方、また、田園都市線沿線ですと皆さん移動が簡単なので、南部の方もすっとそちらのほうがいいなと思ったら移っていってしまう。特に若い方のほうが移りやすいという。年配の方はそれなりにしっかりとした家を構えていたりするので、移るのはどうかなと思ってとどまつてくださる方はいるかもしませんが、若い方は、まだ賃貸とかでお住まいの方々ですと、気軽に移られてしまうということを考えると、本当に今、心配しているというのが正直なところです。</p>
	<p>一方で、今回やっとこの青葉台、先ほどの議員団会議でも説明がありましたけれども、少しずつまちづくりというものが変わりつつあります。藤が丘も少し変わってくる。青葉台はこれから議論の上で変わる。そういう中で、従来からお住まいの方だけでなく、若い方が住みやすい街というのを考えていかないといけないと私は思っています。そのために、家賃保証はできませんけれども、若い方がここに住んでみようかな、住み続けたいな、できれば住み続けたいなと思ってもらえるかというところをしっかりとと考えないといけない、そういうふうに思っています。そのために、これからまちづくりを、そこをベースに考えていきたいと思っています。</p>
山下議員	<p>ぜひ、そこを真剣に考えてほしいと思います。特にこれから、すすき野辺りを再整備していきます。そうすると、相変わらずこここの再開発を含めて、やはり少しリーズナブルで若い方たちが住めるようなまちづくりを意図的に誘導していくとか、先ほど言ったようにダブルコアという言い方を地域が出てくるわけですから、そうすると、さっき言ったように青葉台を含めて田園都市線沿線の魅力を伸ばしていかないと、どんどん川崎に取られます。若い、それなりの年収を持っている人間は、コスパがいいと言って小杉に行く。これは損失だと思いますし、転出も含めてしっかりと見て、住み続けられる街というのを今後打ち出していくと、青葉区はそのうちお金がある高齢者の街になってしまふと危惧しています。</p>
横山議員	56ページの高齢者のeスポーツですが、非常に分かりやすいロゴだな

	<p>と思ったのですけれども、どこかに発注して作ったのですか。</p> <p>岸田高齢・障害支援課長 事業者に幾つか案を出してもらい、職員、あと関係の責任職も見ながら、最終的に選びました。</p> <p>横山議員 これから役所の仕事は、いかに生成AIを使いこなすかということだと思います。公的な機関もそうだし、民間もそうです。今の若い世代、これから仕事に就こうとする方々は、生成AIのスキルをしっかりと持つことがもうマストになってきている時代だと思います。このロゴを見て、生成AIだったらすぐ費用をかけずにできるなと思いました。ただ、長期的に見ればそういう方向でやっていかなきやならないけれども、短期的に見ると生成AIを使うと、このロゴをつくっている方の仕事を奪うことになります。それを果たして役所がやっていいのかという問題はあると思います。ただ、そういう時代は必ず来ますし、市民から見ればこれはただでもできるだろうという意見もあると思います。青葉区だけで解決できる問題ではないとは思いますが、区長はどう考えますか。</p> <p>中島区長 何年か前に生成AIが進むと、なくなる職業として確か、医師とか公務員もあったと思います。昨今のデザインというのも、生成AIでこうした静止画それから動画も作れてしまうということで、そのところはデザイン業界の方も非常に心配されているところではあると思います。ただ一方で、クリエイティブなところというのは、既存のものを使って作るということは生成AIはできますけれども、ゼロから生み出すということはできないところもありますので、そういう分野に、今後、デザイン業界とかが転換していくのかなというふうにも思っています。我々としては、コストを下げるることは大事ですけれども、クリエイティブな方々も市民であり生活者であるので、これは生成AIでやればいい、これはクリエイティブな方に考えて作ってもらおう、そういう取捨選択をしていく時代に変わっていくと思っています。</p> <p>横山議員 そのとおりと思うのですが、役所の公共調達の原理原則は、適正な価格、低廉な価格での調達であり、こういうロゴ作成は、生成AIにシフトせざるを得ない。ただ、クリエイティブなものについては、やはり人が関わるべきものなので、そのすみ分け、線引きをちゃんとこれから公がやっていかなければならないと思いました。</p> <p>それとあと、市内の中小企業の発注状況なのですけれども、一つの事例を紹介する。実は青葉区内で崖崩れがあつて、崖対策は県が主担なのだけれども、横浜市にもいろいろなメニューがあつて、このメニューを使って補助ものでやろうということを考えたのだけれども、横浜市の補助を使うと市内中小が原則だから、そこで見積りを取つたところ、市外の事業者との差があまりにもあり過ぎて、市内事業者を使うと補助をもらったとしても高額になつてしまつ。こういうケースがあつて相談を受</p>
--	---

	<p>けた。これほど資材費や人件費が高騰してくると、市内中小を必ず使いなさいというと本末転倒した話になりかねない。何のために補助を打っているのかという原理原則が崩れてきた。青葉区の場合、市内中小企業への発注を求めている補助はどれくらいあるのですか。区づくりでは。</p>
中島区長	<p>例えば1階の売店で郵券等を購入する場合、あそこは社会福祉法人でその他法人という扱いになってしまって、中小企業振興条例に基づく中小企業には当たらないとか、あとはNPO法人に委託する、これも条例上は中小企業には当たらない。こういったものがかなり含まれておりますので、基本的には青葉区はなるべく市内、できれば区内が一番いいのですけれども、少なくとも市内の中小企業の方もしくは市内のそうした団体の方にやってもらうということをベースでやっています。</p>
宮崎総務課長	<p>件数は把握していませんが、青葉区の自主企画事業で出している補助金は、もともとは財政局の補助金規則にのっとっており、原則1件100万円以上のものについては市内中小への発注を原則とするルールが適用されます。実際の状況については地域振興課が説明します。</p>
松本地域振興課長	<p>例えば自治会町内会が申請する会館整備の補助金であったり、脱炭素の補助金につきましても、やはり市内中小ということで、そこで困られているというケースは伺っております。</p>
横山議員	<p>我々、中小企業振興条例をつくった立場からすると、当時はあまりそういう問題というのはなかったのだけれども、時間を経ることによってそういう事例が出てきています。だから、必ずしも本当に市内中小にしなければならない、しろと言ってしまうと、本当に市民活動に影響が出かねない問題が出てきているから、市民活動を目的とするのか、それとも市内中小の振興を目的とするのかという、このバランスをしっかりともう一度条例を見直していくかなければならないなということを最近、私は感じ始めております。区づくり会議でこういう話をしてもなかなか解決にはつながらないのだけれども、そういう感覚を持っていますので、ぜひその点は共有したいと思います。</p>
	<p>最後に、谷本公園について伺います。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>6月にご報告した後、新しい用地の購入はできておりません。現在、0.4ヘクタール、9区が残っております。このうち、8区で登記がついていますが、昭和の時代からついているものがありますので、全部、昭和の時代からついている仮登記ですので、その部分も含めて合わせて仮登記権者との交渉を進めておりますが、本日新たな進捗を報告できなかったことはお詫び申し上げます。</p>
宮崎総務課長	eスポーツのロゴの関係で補足の説明です。
岸田高齢・障害支援課長	マークについては事業者に提案させたのですが、楽しむ、つながる、元気になるというキャッチフレーズは、生成AIで出したものと、職員

	<p>の提案で出したものを並べながら検討して、作りました。</p>
横山議員	<p>ということは、このキャッチフレーズは生成AIが作ったということか。それとも職員提案か。</p>
岸田高齢・障害支援課長	<p>候補として、生成AIのものと職員が提案したものとを並べて議論した結果、職員が作ったものになりました。</p>
横山議員	<p>なるほど、青葉区では人が作ったものが上回っていると。</p>
伊藤議員	<p>52ページの多世代交流の部分、青少年育成ということで、みんなの学習室というのを7～8月に実施したということですが、このときのお子さんの様子とか、どのような学習内容だったかとか、ボランティアの方たちの状況などを教えてほしい。</p>
佐藤こども家庭支援課担当課長	<p>みんなの学習室は、区内の地域ケアプラザや地区センターなど区民利用施設で開催し、内容については各施設が趣向を凝らして宿題等を見る時間以外に遊びの時間、触れ合いの時間を設けています。子供たちはそこに入ってくれている中・高・大学生の学生とともに学習し、楽しい時間を過ごせているという報告を受けています。また、参加した子供と、サポートしたボランティアの学生にアンケートをそれぞれ取っていますが、アンケート結果から双方ともに良い効果があるのではないかと考えています。特にボランティアの学生については、ボランティアをやつてみたかったけれども、参加したことで地域の人と近いつながりを感じて、ぜひまたやってみたいという声も聞かれたので、非常に効果のある事業だったと思っています。</p>
伊藤議員	<p>効果が上がっていることは良いことだと思いますので、検討を進めてまた実施していただきたいと思います。</p> <p>居場所について、地区センター等に行くというのは分かっているけれども、やはり同世代で集めたいという部分もあり、それだけでは少し楽しみがないので、多世代で交流したいという話も聞いています。そういう点で、高齢者の多世代交流というのでしょうか、例えばeスポーツなどにも高齢・障害者だけの事業という形ではなく、そこにお子さんを混ぜるとか、工夫ができないかお聞きしたい。</p>
佐藤こども家庭支援課担当課長	<p>子供のほうからの視点で言うと、今回のみんなの学習室の中でも、ケアプラザによっては、地域で活動している、ボランティアの方たちと一緒にカレーを食べたり、お話の読み聞かせのような企画もあったので、そういった場面で、学生という世代をさらに越えた交流もあったと聞いております。</p>
岸田高齢・障害支援課長	<p>eスポーツでは、幾つかの地域で、居場所で行われた会にお子さんが一緒に参加してゲームをやったという実績がございます。また、利用者様の声で、実際にやった後、おうちに帰ってお孫さんと楽しんで、今後は孫とも一緒に楽しみたいみたいなお話も頂いていますので、eスポー</p>

	<p>ツを通じての可能性はあるかと思いますが、eスポーツは一つの領域ですので、もっと幅広く世代交流できるように考えたいと思います。</p> <p>伊藤議員 難しい部分もあるかと思いますが、さらに進めてください。</p> <p>おさかべ議員 私も、みんなの学習教室に非常に注目しています。先ほど夏の居場所の話がありましたけれども、やはりこういったことが居場所になってくると思うので、ぜひもっと拡大してほしいと要望します。</p> <p>その関連で、大場みすゞが丘では、夏休みの間、小学校高学年とか中学生を対象にお菓子作りだったりとか、竹細工教室だったりとか、1回1000円でいろいろやっています。私、今回、この夏初めてその募集に申し込みに行ったら、ものすごい長蛇の列で、地区センターにあふれんばかりの人が、保護者が、そして多分、保護者が仕事で行けなかった場合は高齢者のおじいちゃん・おばあちゃんが並んでいて、私は時間どおりに行つたのですけれども、それでは間に合わなかったのだ、もっと早く行って行列に並ばなければいけなかったのだ、と思うようなぐらいすごい人数が来ていました。並んでいる間に、もう何とかお菓子作りが終了しましたとか、残念、みたいな声が漏れたりするような感じでした。私はこれはすごい取組で、必要だと思うし、ニーズがすごいと感じたのですが、みすゞが丘の地区センターでしかやっていないと聞きまして、残念だなと思いました。せっかく青葉区で好事例をやっているので、ぜひこういうものをキャッチしていただきたい。是非、来年の並ぶ日には来ていただいて、直接保護者の方とかにヒアリングをかけていただきたい。小学生の上の娘はもう3年生になり、来年、再来年あたりからは学童に行かなくなつて夏の間家で過ごすようになるのかなと思うと非常に不安です。こうやって毎日でなくとも週にイベントが幾つか埋められて、それに行ってもらえる場があるというのは親にとって非常にありがたい。青葉区の参加者に聞くところによると、青葉区の子たちは南町田のグランベリーパークにいる子たちが結構いるということです。夕方になると戻ってきてそれぞれ塾に行くという話を聞いたりもして、高学年以降、中学生の居場所がないです。ママ友から、小学3年生の女の子をこの夏から家で一人で待たせて、夕方になると自分で塾に行くということをやらせたが、ものすごく不安だと言っていました。やはり家にいる間ずっとYouTubeを見たりゲームを見たりなどしてしまうと。横浜市の子育てしやすいまちは、未就学児をすごくやっているイメージはありますけれども、子育ては続いている、夏のすごく暑い中で居場所がなくて、特に高学年、中学生です。高校生ぐらいになればもうあとは子供たちに任せてもいいのでしょうかけれども、やはりここは問題だなと思っています。今回、青葉区もみすゞが丘というすごくいい事例がありますが、区長はどう考えますか。</p>
--	---

	中島区長	大場みすゞが丘の指定管理者は非常に良い取組をしているということを改めて感じたとともに、できればそういったことを、それぞれの指定管理者の方の独創性とかがあるので押しつけることはできませんけれども、こんな事例がありますよということは、ほかの指定管理者の方にも情報提供していく、それがニーズにつながっていけば、結果的にそこに、自主事業というはある意味収入もできる事業ですので、そういったことが指定管理者の運営のほうにも好循環があればいいのかなと感じました。ただ、こういったものは地区センターとか公共の施設だけではやはりやり切れないところがあるかなと思っております。民間のところになりますと、もしかしたらお金はかかるけれども、もっと手厚くやってくださるかもしれない。ただ、いろいろな経済事情の方もいらっしゃいますし、いろいろな考え方の方もいらっしゃるので、民間さえできればいいということでもない。一方、行政だけが全てやらなければいけないということでもない。その中で、こうした公的な施設の中でできるサービスというのも増やしていく努力をしながら、取捨選択を、お子さんを育てている保護者の方またはお子さん自身に選んでもらえるよう、そんな街にしていけるように、一つ一つ考えて進めていきたいと思います。
	おさかべ議員	民間の室内の遊び場は都筑区がすごく充実しています。青葉区だとたまプラーザのボーネルンドぐらいしか知らないですけれども、都筑区は最近ではちきゅうのにわということができました。例えばそういった場所があることを知らせるというのも一つなのかなと。お金はかかるてしまいますが、その情報提供ということも一つかと思っています。
	真船副区長	補足します。大場みすゞが丘のような取組は、ほかの地区センターでもやっています。ただ、広報の仕方とかにこれから少し工夫が必要と思っています。それぞれのセンターでそれぞれのスタッフの考え方とか施設の状況によっていろいろな講座を開設しています。居場所づくりは区役所全体の課題として考えておりますけれども、一つは、居場所があるのに把握できていないのではないかと。それを必要な方にどうやってお届けできるか、そういうところも課題なのかなと思っていますので、いろいろな取組を後押ししていくのもあるのですけれども、今あるものももっと有効に活用できるような模索について、今、内部で議論しています。
	おさかべ議員	指定管理者の在り方を市で見直ししていると聞いています。地区センター同士での情報提供も含め、市民・区民の皆様への情報発信も含め、よろしくお願ひします。